



すぎのこつうしん

平成29年2月 古川東町カトリック保育園

「謝り合う心を育みましょう」

今年は雪が多いかなと思っていたのですが、今の所あまり降ることがなく、それでも子ども達は少し雪が積ると集めて来て、小さな小さな雪だるまや雪うさぎ等を作り楽しみみわづかな雪が降る都度に大喜びで遊んでいました。寒い冬、天気の良い日には外気に触れ丈夫な身体をつくっていきたいと思います。

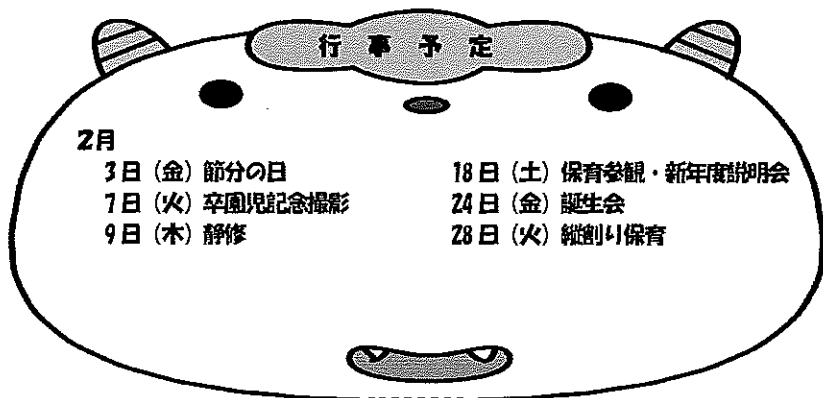
先日、主任から大崎タイムズに掲載されていた第37回「少年の主張」で優良賞をとった中学3年生の子の「言葉の力」を読ませていただきました。全文は載せられないので要約し紹介します。

自分が小学生だった頃の経験や学校での生活の中で聞かれるたった一言で人を傷つけてしまう「うざい」「きもい」などといった言葉は言われた人がとても悲しい顔をする事や逆に「ありがとう」は人を喜ばせて幸せにする魔法の言葉であり誰かに感謝の気持ちをもった時は素直に「ありがとう」誰かが悲しむようなことをしてしまったら「ごめんなさい」誰かに嫌なことをされた時には我慢をせず「嫌だ」と伝える。きちんと口に出して相手に伝えることが言葉の意味、言葉の力を発揮させることになるという文章でした。

中学3年でここまで言葉の大切さを考えていることに感動し、頭が下がる思いでした。

私たち大人は子どもは分からないだろうと感情のままに冷たい言葉を投げかけたりしていませんか？親の言われた言葉、大人から言われた言葉はいつまでも子どもの心の中に残っているものです。それが嬉しい言葉なら大きく成長できるでしょう。それが冷たい言葉や脅す言葉ならいつまでも心の奥に住みつuki、親への信頼感、大人への信頼感は失われていきます。日々の生活の中、子どもへの言葉掛けを一度振り返りましょう。自分が不安定な心で発してしまい、子どもを傷つけてしまったら素直に謝りましょう。子どもは大好きなお父さん、お母さんをきっと赦してくれるはずですよ。

< 園長 平野義子 >



2月

- | | |
|---------------|--------------------|
| 3日(金) 節分の日 | 18日(土) 保育参観・新年度説明会 |
| 7日(火) 卒園児記念撮影 | 24日(金) 誕生会 |
| 9日(木) 静修 | 28日(火) 縦割り保育 |



2月のうた♪

「いちわのとりさえ」

① いちわの とりさえ かみさまの ゆたかな めぐみに まもられて
よろこび うたい まいあそび まいあそび

② ひとつの はなさえ かみさまの ゆたかな めぐみの あめうけて
いろうつしく さきにおう さきにおう

③ おさない わたしも かみさまの ゆたかな めぐみを たたえつつ
まことの みちを ひとすじに ひとすじに

「雪のペンキ屋さん」

① ゆきのペンキ屋さんは おどろからちらちら おやねも かきねも
ごもんも みんな まっしろく まっしろく そめにくる

② ゆきのペンキ屋さんは おおぜいでちらちら おやまも のほろも
はたけも みんな まっしろく まっしろく そめにくる

☆☆☆ お父さん・お母さんから ☆☆☆

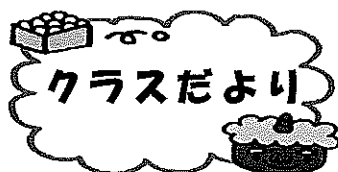
保育園生活も残り2ヶ月となった今、私自身まだ実感がありません。ひよこ組からお世話になり、お友達との間わりや日々の生活、先生方の温かいご指導のおかげで、たくさんの大事なことを学びここまで成長出来たことに感謝でいっぱいです。そして母として未熟な私に対しても親身になりいつも的確なアドバイスを頂き、ありがとうございます。まだまだ手のかかる〇〇ですが、残りわずかな保育園生活、宜しくお願ひします。

< ひつじ組 ○○○○ちゃんのお母さん >

「 謝り合う心を育みましょう 」

友達に嫌な思いをさせてしまった時、してはいいないことをしてしまった時、「ごめんね。」と言葉にして謝ることは大切です。しかし、時々子どもたちのやり取りの中で「ごめんねって言ってるでしょ！」と怒りながら謝っていたり「先生に言うから！」という友達の言葉を聞いて「ごめんね？ごめんね？」と相手に何度も謝っている姿を見かけます。その場面を見る度、「ごめんね」とただ言葉にすれば良いものなのかと考えさせられます。「怒られたくないから」「面倒なことになりたくないから」とその場しのぎのようにとりあえず謝っておけばいいや、という気持ちで謝っても、それは謝ったことにはならないのではないのでしょうか。自分の悪かった部分、相手がどんな気持ちになったか気付き、言葉にしてこそ心から謝ったと言えるのだと思います。そして、心から謝ることができれば相手にもその思いが伝わり自然と「いいよ。」と赦し合うことができるのだと思います。子ども達にもそのことを伝えるだけでなく、自分自身もできているか見つめ直し、子ども達、自分も心から素直に謝ることが出来るよう過ごしていきたいと思ひます。

< ことり組担任 早川 美怜 >



★ ぼんび組 (0歳児)

- <ねらい> ・してはいいないことを知り、「ごめんなさい」と動作で表そうとする。
・指先を使った遊びを楽しむ。
- <家庭連携> ・まだ1歳児ですが、大人が話していることはなんとなく分かります。してはいいないことは表情や分かりやすい言葉で繰り返し知らせましょう。
・子どもが指先を使って遊んだり食事をする姿を見守り、指先の機能を高めましょう。

★ ひよこ組 (1歳児)

- <ねらい> ・「ごめんね」「いいよ」と謝ったり、赦すことを知る。
・スプーンの正しい持ち方を知る。
- <家庭連携> ・家庭でも善悪について知らせ、「ごめんね」と謝ったり「いいよ」と赦せる心を育てていきましょう。
・食事の時に声を掛けたり、手を添えながらスプーン正しい持ち方を知らせていきましょう。

★ ことり組 (2歳児)

- <ねらい> ・「ごめんね」「いいよ」と素直に謝り、赦し合おうとする。
・身の回りのことを自分でしようとする。
- <家庭連携> ・してはいいないことをした時は素直に謝ることや謝られた時は赦すことの大切さを伝えていきましょう。
・自ら進んで行おうとする気持ちを受け止めたり、出来たときはたくさん褒め、自信ややる気に繋げていきましょう。

★ こねこ組 (3歳児)

- <ねらい> ・謝ろうとする心、赦そうとする心が育つ。

・友達との関わりの中で我慢することを覚える。

- <家庭連携> ・いけない事をした時は何が悪かったのかを尋ねたり、一緒に考え、素直に謝れるようにしましょう。又、優しい気持ちで赦してあげることの大切さも知らせましょう。
・子どもの気持ちを受け止めつつ、切りかえがスムーズにできるような言葉かけをしていきましょう。

★ うさぎ組 (4歳児)

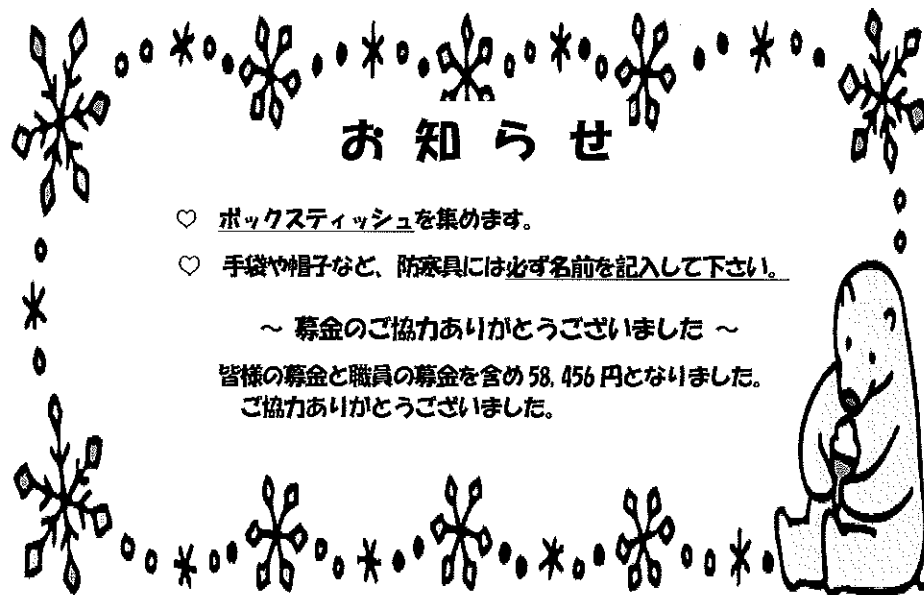
- <ねらい> ・互いに謝り合う心、赦し合う心が育つ。
・イメージをさまざまに膨らませ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- <家庭連携> ・子どもの気持ちを受け止めながらも相手の思いと一緒に考えたり、知らせるようにし、心から謝ったり、赦す事ができるようにしましょう。
・子どもたちの思いや考えを言葉で伝えられるよう引き出してあげ、相手の話しも聞いたり、受け入れたりにできるようにしましょう。

★ ひつじ組 (5歳児)

- <ねらい> ・相手の気持ちに気付き謝ったり、快く赦し合う心が育つ。
・友だちとの関わりを深める。
- <家庭連携> ・素直に謝ったり、赦し合えた時には、その気持ちを十分に受け止めてあげましょう。
・12人で過ごす時間もわずかとなりました。友だちとたくさん遊び、たくさん思い出を作りたいです。今日1日友だちと何をして遊んだか、どんなことがあったか話す言葉に耳を傾けたり、友だちの良さや大切さを伝えていきましょう。

◎ 給食室から

・巷ではインフルエンザ、かぜが流行しています。寒い日や暖かい日など気温差が激しく体調管理が難しいとおもいますが、好き嫌いせずなんでもたべて元気な体をつくりましょう。



お知らせ

- ♡ ボックスティッシュを集めます。
- ♡ 手袋や帽子など、防寒具には必ず名前を記入して下さい。

～ 募金のご協力ありがとうございました ～

皆様の募金と職員の募金を含め 58,456 円となりました。
ご協力ありがとうございました。

あなたの1分間拝借



2月の心の教育目標は、『謝り合う心、赦し合う心の育成に力を注ぎましょう！』です。

振り返ってもみますと、家庭、学校、職場等で秩序が乱れ悲しい思いをすることは、ひとえに私達がそれぞれの場で自分の言葉や行いを振り返ることを怠ったり無視したりする驕りの心に起因するものと思われまふ。どんな小さな事でもお互いが自分の非を心から認め反省し、相手に謝罪する謙虚さがないと和解の柱をうちたてることができないものです。昔から「水に流す」ということばがあります。この言葉はよく考えてみると非常に曖昧なキナクサイ言葉ではないかと思ひます。トラブルタことをお互いに『水に流しましょう』だけで反省と痛悔と償いの心が伴わなければ真の解決にはならないのではないのでしょうか。国と国、民族と民族との場合にはなおさら『水に流して…』の流儀では、再燃は必定のこと…心してかかるべきことと信じます。

聖書にイエスの言葉が次のように記されています。

- ① あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。(マタイ5の23～24)
 - ② もし人の過ちを赦すなら、あなた方の天の父もあなたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないならあなた方の父もあなた方の過ちをお赦しにならない。(マタイ6の12)
- 主の祈りの1節に次のように記されています。
- ③ わたしたちの罪をお許してください、私たちも人を赦します！(マタイ6の12)

これらの御言葉は、社会にまた家庭に平和な秩序を立ち上げるためには、和解仲裁ほど大切なも

のではないことを人類にメッセージされた真理であることに目覚めるよう促しております。熟読玩味に値する御言葉と受け止めて頂きたいものです。

世の中に完全な人間は一人もおりません。皆欠陥人間です。過去、罪、欠点を持っています。子ども、大人もトラブルに悩まされます。大事なことは、お互いに人格的存在であることを認め、尊重し合う心を失わず交わることではないでしょうか。私たちが平和に生きていくために、欠陥人間であればあるほど『謝り合う心、赦し合う心』が育成されなければ平和な社会、家庭が実現されないことを教えてくださったイエスの御言葉に限りなく近づいていく努力が一人ひとりに求められているのです。イエスは自分の御言葉を信じて赦し合って生きる人の心に『永遠の命』を約束しております。

④ イエスが天に帰られる時、十字架上の最たる苦しみの中から叫んだ遺言ともいべき御言葉である最高のメッセージを心に銘記して2月のテーマに挑戦したいものです。

『父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているか知らないのです。』(ルカ23の24)

この言葉は「あなたの罪をゆるし、その改心のためのりなさい！」と仰せられたとおり、苦しみのなかでも赦し合うことの大事な事(救われるために)を論されたイエスの模範を胸に2月のテーマ実践に取り組みまふ。イエスはまさに有言実行者であると言っても過言ではないと思ひます。聖書は、イエスの交わりを体験したローマの百人隊長が「げに、あの方は神の子であった！」と叫んだと示しております。

もし人の過ちを赦すなら、あなた方の天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないならあなた方の父もお赦しにならない。(マタイ6の14～15)

カトリック古川教会

司祭 川井 啓

